

三井のリフォーム住生活研究所所長 西田 恭子

社内の設備研修に参加して

各社で新人研修をはじめ、いろいろな社内研修が行われていると思うが、当社のようなリフォーム会社では、構造研修・設備研修・インテリア研修・マンション実務研修などがある。

先日、新人・中途採用者・そしてベテランの再確認のための設備研修に参加した。

若干取材を兼ねた研修参加であったが、総復習ができ、頭の中がスーと整理されていくのがわかり意義深かった。

リフォーム時にはメディア対応も求められる。二〇一一年にはアナログ放送は廃止と、テレビでは毎日のように流れ、不安を感じている人もいるのではないかと思う。住宅における設備は日進月歩と変化し、リフォーム時に各室に空からの配管しておけば良いといわれても、わかったような、わからないような…。

時代性を理解して家づくりをするのは、なかなか大変だ。

たとえば新築住宅では平成一八年六月から、既存住宅も平成二〇年六月から防災管理の観点により、火災

報知機の設置がマンションだけでなく一戸建ての家にも義務づけられた。だが、どこにいくつ付けなければならないだろうか？あるいはマンションでトイレを直すにあたって、便器の位置を変更する場合の注意点は？PS縦管への接続位置確認など、専門家としての知識が常に要求される。



午後一時半から五時半までの長丁場の研修は、途中休憩が入るが、一番大変なのは話し続ける講師なのかもしれない。

休憩時間は講師の回りに人が集まり、質問攻めだ。リフォームの場合、個々の住宅により事例判断をする必要性があり、実際の仕事上の物件での疑問点や考え方を、この機会を逃さずに

知っておこうと思っているらしい。

だが、よく質問内容を聞いてみると、どうやら『我が家の場合だとどうなるの？』と個人的な疑問を聞いている節もある。

みんな設備では、我が家でも迷っているのだろう。

研修にもいろいろなあるが、この設備研修は社内でも評判がよいと言われている。とくに実際のリフォーム設計をする者たちから好評なのだが、どうやらわが身に関わる部分が大きいこともあるようだ。

この研修は時間をオーバーして、午後六時に終わった。時間を超過してでも話しておきたいと思う講師の熱意に、誰も文句を言わなかった。本当に知りたいことが話され、それを真摯に受け止めようとするメンバーの集まりだからなのだろう。

日頃、大学の講義を持ち、セミナーでも講演をしている私は、時間通りに終わらせることばかり優先させ、また時間通りにぴったりと終わるのを自慢にしていたことを、なんだか反省した研修体験であった。



西田恭子氏のプロフィール「二級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。」